

施策評価シート(平成22年度の振り返り、総括)

作成日 平成 23 年 6 月 21 日

施策	34	生涯スポーツの推進	主管課	名称	教育課	関係課
				課長	青木 寿	

施策の目的	対象 (誰、何を対象にしているのか)	対象指標名	把握方法や定義など		単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度見込み
		①町民(外国人を含む)	①人口(外国人を含む)	住民基本台帳による 毎年度3月31日現在数値		人	23,305	22,924	22,591	22,194
	意図 (対象をどういう状態にするのか)	成果指標名 (意図の達成度を表す指標)	設定の考え方	把握方法や定義など	単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度実績	23年度目標
	①テーマ(目的)をもって日頃から運動をする。	①週に1回以上スポーツをしている町民の割合	日頃からテーマをもって運動してもらうことが重要であることから指標とした。	町民アンケートによる ※日頃からは週1回以上のこと	%		28.6	33.5	-	

住民と行政との役割分担	1. 住民の役割 (住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)	2. 行政の役割 (町がやるべきこと、都道府県がやるべきこと、国がやるべきこと)	
	①自主的に運動し、啓発活動をしてもらう。(団体等についても) ②指導者になってもらい、さらには後継者を育成してもらう。 ③スポーツやレクリエーションの講座やイベント、団体・グループ活動に積極的に参加する。	1)町がやるべきこと ①スポーツマスタープランを策定・進捗管理 ②指導者の育成支援と支援強化 ③施設の整備と管理運営 ④スポーツ教室・大会等の開催(意識啓発も含まれる。)	2)国・県がやるべきこと <県> ①各種県大会の実施 ②指導者養成講習会 <国> ①各種全国大会・国体の実施 ②施設整備への補助金

平成22年度の 評価結果	1. 施策の成果水準とその背景・要因		
	<p>1) 現状の成果水準と時系列比較（現状の水準は？以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は？）</p> <p>①「週に1回以上スポーツしている町民の割合」は、平成20年度28.6%、平成21年度33.5%であり4.9ポイント伸びた。この要因は、マスクなどの健康に関する情報提供の頻度が高かったこと等、外的要素によるものと考えられる。</p> <p>②年齢別にみると、65～74歳で41.2%、75歳以上で43.5%と高い一方、40歳代で24.8%、50歳代で28.3%と低い割合となっている。40～50歳代は仕事や地域行事などの都合により、スポーツに参加できないのではないかと考える。また、65歳以上の高齢者では、「毎日している」人の割合も多い。</p> <p>③年齢別に平成20年度と平成21年度の割合を比較すると、特に75歳以上の高齢者が、30%から43%と大きく伸びている。これは、グランドゴルフ・ターゲットバードゴルフ人口が増加したためと推測できる。また、20～30歳代も約20%～約35%へと大きく伸びており、フットサルやソフトバレーなどの少人数で気軽に始めることができるスポーツへの参加者が増えたからと推測できる。</p> <p>④地区別にみると、月夜野地区で29.6%が34.2%、水上地区で28.3%が30.8%、新治地区で27.9%が30.4%となるなど全地区で伸びているが、月夜野地区の伸び率が最も高かった。これはターゲットバードゴルフ場が月夜野地区にあることが影響していると考えられる。</p>	<p>2) 他団体との比較（近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は？）</p> <p>①群馬県のデータでは、週1回以上運動・スポーツをしている県民の割合は32.6%であり、みなかみ町は1ポイント上回っているが、ほぼ平均水準である。</p> <p>②内閣府の全国データでは45.3%であり、みなかみ町は全国平均を下回っている。体育施設の場所が遠い等の地理的な要因もあるのか。年齢別に見ても全年齢層で下回っている。群馬県の実施率は青年層で全国平均よりも高いが、壮年・高齢者は低くなっている。国の目標値は50%である。</p> <p>③他の市町村と比較し、町の体協組織がしっかりし、活動量・人材ともに充実している。</p> <p>④市町村所有としての人工芝の運動広場を所有しているのは近隣ではみなかみ町だけであったり、町村合併によって体育関連施設の数が多くなるなど、近隣市町村と比較しても体育施設は充実している。</p>	<p>3) 住民の期待水準との比較（住民の期待よりも高い水準なのか同程度なのか、低いのか、その他の特徴は？）</p> <p>①老朽化の進む施設が多くあり、整備に関する要望に応え切れていない。（修繕や設備の機能向上など）</p> <p>②施設については、観光目的の利用と町民の利用がバッティングすることがあり、町民利用に制約が生じている。観光利用は特に夏休みに集中している。観光専用の施設も必要ではないかという声もある。</p>
	<p>2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み（事務事業）の総括</p> <p>①平成22年度に開設した月夜野地区人工芝の緑地公園の利用者数は平成21年度3,562人（人工芝敷設工事のため利用できない期間あり）であったが、人工芝にしたことで12,199人と約3倍に伸びるなど、町民のスポーツ実践に大きく貢献した。</p> <p>②平成20年度から開始した軽スポーツ教室・ウォーキング教室等へ約300人の参加があるなど、ポイントを伸ばす要因となった。</p> <p>③平成19年度から協賛金を集め、各競技団体・支部に助成し盛んな取り組みを行っている。</p> <p>④競技は体育協会が主体となって行っている。</p> <p>⑤平成21年4月に総合型地域スポーツクラブ（月夜野スポーツクラブ）が設置された。</p> <p>⑥軽スポーツ教室も年間128人の参加があった。</p>	<p>3. 施策の課題認識と改革改善の方向</p> <p>①老朽化した施設が多いので、施設の修繕や整備、耐震補強を計画的に実施する必要がある。避難所となっている施設も多い。</p> <p>②スポーツを実施する環境を提供できるよう、町民は無料で施設を利用できるようにするなど対策が必要である。</p> <p>③夏場の合宿などで施設を利用する機会が多いため、町民の利用との兼ね合いを検討する必要がある。</p> <p>④町村合併により施設の数は増えたが、どれも中途半端な規模であり、今後全ての施設に均等に投資を行うのか、いくつかの施設に集中的に投資をするのか（再編や統合を含めて）議論を進めていく必要がある。</p> <p>⑤週に1回以上スポーツをしている町民の割合の向上に向けて、体を動かすことの必要性を周知し、体育施設＝スポーツの考えを転換し、体育施設に出向かなくてもできるスポーツ（体を動かす運動）の考案及び紹介をしていくことも重要である。</p> <p>⑥40歳代、50歳代での運動不足が生活習慣病の一要因であることや、心身のリフレッシュにつながることを周知し、健康な心身があって働くことができ、生涯にわたって楽しい生活を送ることができることの認識を与える。</p>	